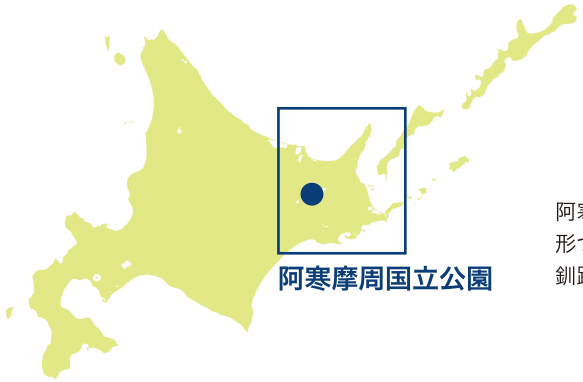
National Parks of Japan

阿寒摩周国立公園

Akan - Mashu National Park

環境省
Ministry of the Environment

National Parks in Eastern Hokkaido
北海道東部の国立公園



阿寒の山々をさらに北東にたどれば、同じ千島火山帯の活動によって形づくられた知床半島へ、屈斜路湖から流れ出る釧路川をたどれば、釧路湿原へとつながっている。

阿寒摩周国立公園

Akan-Mashu National Park

阿寒（アカン）の語源は、アイヌ語の車輪（雄阿寒岳・雌阿寒岳が車の両輪のように並んでそびえたっているため）を意味する【アカム akam】、ウグイの産卵する川を意味する【ラカンペツ rakan-pet】、動かない・不動の（昔の大地震の時も雄阿寒岳が動かなかったことによる）を意味する【アカン】などの説がある。

CONTENTS

ようこそ阿寒摩周国立公園へ・・・・・・・・・002
写真でつづる阿寒摩周国立公園・・・・・・004
地図でみる阿寒摩周国立公園・・・・・・・・012
阿寒摩周国立公園のプロフィール・・・・・014
阿寒摩周国立公園のアクティビティ・・・・・018
阿寒摩周国立公園に行くには・・・・・・・・022
関係施設・機関連絡先一覧・・・・・・・・・・023
国立公園のプロフィール・・・・・・・・・・・・024
北海道の自然環境保全・・・・・・・・・・・・・025

ようこそ阿寒摩周国立公園へ Welcome to Akan-

針葉樹の森と静かな湖水、脈打つ火山とアイヌ文化

阿寒摩周国立公園に足を踏み入れると、何よりも森の深さに驚かされる。
しかもその森は、どこか快活な他の地域の針広混交林とは一線を画し、
ずしりと重みを感じさせる鬱蒼たる針葉樹林がほとんどだ。
そんな深い森の中に、阿寒湖、屈斜路湖、摩周湖という個性の異なる3つの湖や、
彩り豊かな小湖沼が点在する。
さらには今も活動を続けるいくつかの火山や噴気口の数々、
バラエティに富む自然景観が、訪れる者を魅了する。
もうひとつ忘れてならないのはアイヌの伝統文化。
阿寒湖畔のアイヌコタンは、アイヌの文化にふれることのできる場所として貴重な価値がある。

Mashu National Park

Virgin forest that covers the skirts of mountains

山裾を埋める原生の森

北欧を彷彿させる広大な針葉樹林は、まさに阿寒摩周国立公園ならではの景観

倒木更新

倒れた大木はやがて腐朽し、次世代の木のゆりかごとなる。これを倒木更新と呼ぶ。写真に見られる若木は、ここまで育つのに10年近くが経っている

（📷：雄阿寒岳登山道）

森を駆ける エゾシカたち

阿寒をはじめ道東一円に多いエゾシカ。阿寒の森に生息する代表的な哺乳類であり、その姿を見る機会は多い

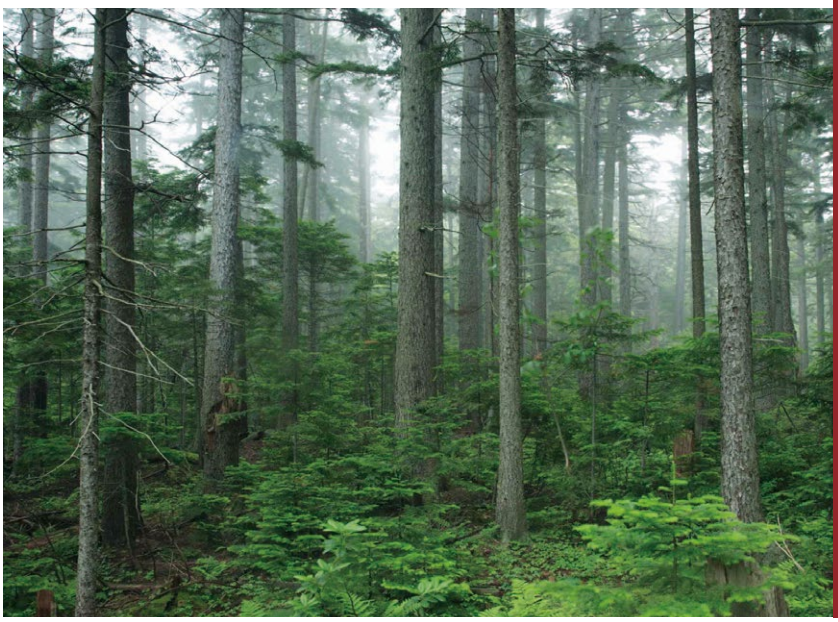
☞ エゾシカ：アイヌ語で【ユク】と呼ぶ

（📷：滝口）

山麓を埋め尽くす 針葉樹林

国道241号沿いの双岳台は、その名のとおり雄阿寒、雌阿寒2つの山を望む展望地。山そのものもさることながら、その麓を埋め尽くすかのような針葉樹の森が見事だ

（📷：双岳台）



鬱蒼たる アカエゾマツの森

阿寒摩周国立公園の森は北方系の針葉樹が多勢を占める。中でも特徴なのはアカエゾマツ。その名のとおり樹皮が赤く、エゾマツと比べればその違いは明瞭だ

☞ エゾマツ：アイヌ語で【スンク】と呼ぶ

（📷：雄阿寒岳登山道）

Pulsating volcanos

脈打つ火山

地球の鼓動を実感できる活火山や噴気口、温泉湧出地が公園内に点在

和琴半島のオヤコツ地獄

屈斜路湖の和琴半島先端部の水辺で活発に噴気を上げるオヤコツ地獄。幕末の探検家・松浦武四郎の記述によれば、ここから上がる炎で、日暮れ時にも昼のように明るかったという

（📷：和琴自然探勝路）

噴気に包まれるアトサヌプリ

川湯温泉からほど近いアトサヌプリ(硫黄山)は今なお白い噴気を上げる活火山。山麓には6月から7月にかけてイソツツジの可憐な花が咲き誇り、荒涼とした山肌と好対照を見せる
（📷：アトサヌプリ(硫黄山)）

雌阿寒岳火口と青沼・赤沼

活発な火山活動を続ける雌阿寒岳。近年にも小噴火を起こし、新しい火口ができた。火口内に見える池は青沼(下)と赤沼(上)。写真左上の森の中に、深い色の水をたたえるオンネトーが見える

全国的にも珍しいボッケ

阿寒湖畔にある泥火山"ボッケ"。泥土の溜まった中に噴気口があり、ボコボコと吹き出している。ボッケとはアイヌ語で「煮え立つ」という意味
（📷：ボッケ遊歩道）

A variety of unique lakes

個性豊かな湖水の数々

壮大な火山活動によってうまれた湖と森が描く絶妙のコントラスト

明けゆく阿寒湖

阿寒湖畔から雄阿寒岳を望む。湖畔の温泉街は道内でも有数の規模を誇り、宿泊地としての人気は高い。湖では釣りなどのレジャーも盛んだ
（📷：ボッケ遊歩道）

阿寒湖のマリモ

阿寒湖のシンボルともいえるマリモは、特別天然記念物に指定されている。同種の植物は他の湖にも見られるが、美しい球形になるのは阿寒湖だけとされる　[写真提供：釧路市教育委員会]

☞ マリモ：アイヌ語で【トー・ラサンペ】(湖の・御霊)と呼ぶ

ペンケトーとパンケトー

ペンケトー、パンケトーは、もとは、阿寒湖の一部だったが、雄阿寒岳噴火の溶岩で分断されて今の形となった。国道沿いの「双湖台」からその姿を見ることができる

☞ アイヌ語の【ペンケ・トー】(上の・湖)、【パンケ・トー】(下の・湖)に由来する

神秘的なオンネトー

今なお噴煙を上げ続ける活火山・雌阿寒岳の麓にたたずむ静かな湖がオンネトーだ。量感たっぷりの雌阿寒岳、阿寒富士の両山をバックに輝くエメラルドグリーンの湖面は、息を飲むほど素晴らしい

☞ アイヌ語の【オンネ・トー】(老いたる・湖)に由来する

（📷：オンネトー湖畔）

黎明の屈斜路湖

美幌峠から見る朝焼けの屈斜路湖。湖の中程に大きな中島が浮かぶ様子がよくわかる。このほか津別峠や藻琴山が、屈斜路湖の展望地として有名だ
（📷：美幌峠）

透きとおる美しさの神の子池

日差しの明るさにより色が変化するというとても神秘的な池である。年間を通して水温が8℃と低く、倒木も腐らず底に沈んでいるのも特徴だ。1周200mの小さな池で、周囲には木道も整備され色々な方向から池を眺めることができる
（📷：神の子池）

全面結氷の摩周湖

流入・流出河川がまったくない摩周湖は、世界的にもトップクラスの透明度をもつ湖だ。夏は霧が多く発生するが、冬は晴天率が高い。この藍色の深さは摩周湖ならではといえる
（📷：摩周湖第一展望台）

The still thriving culture and ideas of the Ainu

今も息づくアイヌの思想と文化

自然をカムイ（神々）と崇めるアイヌの自然観と伝統文化に触れられる貴重なスポット

北海道各地には昔から先住民族であるアイヌの人々が居住しており、阿寒湖畔もその1つである。
アイヌは、自らが住む土地をアイヌモシリ（人間の静かなる大地）と呼び、
自然界をカムイ（神々）として謙虚に祈り、自然の恵みに感謝して、
自然と共生する暮らしを営んできた。
そのアイヌの自然観は、
わが国の自然と人間のあり方を太古から見据えているかのようである。

まりも祭り 戦後、マリモの絶滅が危惧され、マリモを守ろうとする運動が高まった。アイヌ民族の宗教観に則り、マリモをシンボルとし、マリモを育む湖と周りの環境の健やかなる青みと日々生活の感謝の想いを自然界の神々に対しささげる「第一回まりもまつり」が、1950(昭和25)年10月7日に開催された。その精神は現在も受け継がれている
（📷：まりもを送る儀式）

伝承される アイヌの芸能

アイヌの人たちは、神=自然界の守護と、生活の糧があってはじめて平穏無事な生活が保証されると考えている。その神に対し、感謝の言葉や想いを表現し、長い年月をかけて発展したものが、現在、北海道各地で見られる舞踊や口承文学・伝統工芸である。上の写真は、彼らがサルルンカムイ(湿原の神)と呼ぶタンチョウを表現した踊り

タンチョウ

イオマンテ

狩猟・採取・漁撈の民であったアイヌの人々にとって、熊は人間のために肉や毛皮などを身にまとい、神の国から遊びに降りてきた位の高い「山の神」として崇められている。その霊を神の国へと送り返す儀式が「イオマンテ」の儀式である。現在、アイヌ文化を体感してもらおうと「イオマンテの火まつり」公演が開催されている(4月下旬〜11月下旬)

アイヌコタン

【独特な雰囲気とオリジナル作品の数々…】
阿寒湖温泉街の西側にあるアイヌコタン(アイヌ=人間)・(コタン=村/集落)には、30軒ほどの民芸店などが立ち並び、ここでしか見られない作品も数多くある

地図でみる

阿寒摩周国立公園

度重なる火山の大噴火によって形づくられた阿寒、屈斜路、摩周の3つのカルデラ地形と湖。湖を包み込むように広がる針葉樹に広葉樹が入り混じった深い森とそこに棲む多くの野生動物。そして、今なお続く火山活動とその恵みである温泉。これらがつくりだす景観が阿寒摩周国立公園の魅力である。

阿寒摩周国立公園は大きく「阿寒地域」と「摩周地域」の2つのエリアに分けることができる。それぞれ阿寒湖温泉街と川湯温泉街が公園の利用拠点となっており、宿泊施設や情報提供施設が集まる。2つの利用拠点の間は、阿寒横断道路で1時間ほどの距離である。

阿寒地域では、阿寒湖での釣りや、煮え立つ泥土沼を観察できるボッケ遊歩道の散策を楽しめるほか、アイヌコタンで踊りや木彫りなどアイヌ文化の伝統にもふれることができる。温泉街から足を伸ばせば、湖面の色が様々に変化するオンネトーの景観、雄大にそびえる雄阿寒岳・雌阿寒岳の登山、雄阿寒岳の麓に並ぶ太郎湖・次郎湖をめぐる散策などを堪能できる。

摩周地域では、屈斜路湖や摩周湖を周囲の展望台から手軽に眺めることができる。川湯温泉街のすぐ横にはアカエゾマツの純林、イソツツジのお花畑や平地に生きるハイマツの群落が広がるつつじヶ原や硫黄山があり、散策だけでも川湯らしい自然を十分楽しめる。屈斜路湖の東～南岸は、湖畔に湧き出る温泉、キャンプ場、和琴半島などの見どころが並び、カヌーをはじめとする湖上のレクリエーションも盛んだ。

阿寒湖温泉、川湯温泉とも北海道を代表する温泉地であり、公園の魅力を満喫した後に温泉に浸かり、ゆっくり疲れを癒すことができるのも魅力である。

川湯温泉拡大図
川湯の森病院
「もりのパレット」 P.21
川湯エコミュージアムセンター
砂湯
川湯温泉観光案内所
VC
大鵬相撲記念館
P.20
川湯アカエゾマツの森
硫黄山
0
200m
小清水・斜里
・知床・網走
冬季閉鎖
大空町
小清水町
P.18
藻琴山
1000m
ハイランド小清水725
藻琴峠
小清水峠
賢之峠
P.19
つつじヶ原自然探勝路
清里町
神の子池
美幌峠
仁伏
川湯
砂湯
P.21
砂湯キャンプ場
中島
屈斜路湖
アイヌ語
池の湯
アトサヌプリ
(硫黄山) 508m
アイヌ語
かわゆおんせん
釧網本線
摩周第三展望台
裏摩周展望台
清里峠
摩周湖
カムイシュ島
カムイヌプリ
(摩周岳)
857m
アイヌ語
和琴半島
アイヌ語
和琴
コタン
津別峠
P.21
和琴湖畔キャンプ場
和琴フィールドハウス
P.21
和琴野営場
釧路川
P.20
カヌーツアー
摩周湖第一展望台
ぴろわ
799m
P.18
西別岳
標茶町
ましゅう
阿寒横断道路
双岳台
双湖台
弟子屈町
中標津・別海
釧路
P.19
太郎湖・次郎湖
冬季閉鎖
釧路
居村
アイヌ語の地名解説
アトサヌプリ【アトゥサヌプリ　atusa-nupuri】
裸の(atusa)・山(nupuri)。草も木もない山の姿を呼んだもの。
カムイヌプリ【カムイヌプリ　kamuy-nupuri】
神(kamuy)・山(nupuri)。
屈斜路　クッシャロ【クッチャラ　kutcar】
のど口(kutcar)。
湖が川になって流れ出す所のことであり、湖の名に転用されたもの。
フップシ【フプウシヌプリ　hup-us-nupuri】
トドマツ(hup)・群生する(us)・山(nupuri)。
和琴　ワコト【オヤコッ　oya-kot　または　o-ya-kot】
外の(oya)・地面(kot)。湖中に差し出た岬上の地面。
または、尻が(o)・陸地に(ya)・くっついている(kot)。
和琴半島という名は、アイヌ語名にちなんで佳字をあてたものらしい。
登山道
遊歩道
国道
道道
(冬季閉鎖区間)
その他の主要道路
鉄道
エコミュージアムセンター
展望地
散策
登山
キャンプ場
温泉
カヌー
遊覧船
観光案内所

Description of Akan-Mashu National Park

阿寒摩周国立公園のプロフィール

阿寒摩周国立公園の主役は北方系の針葉樹林と多様な形態の湖沼、そして地球のエネルギーを肌で感じられる火山群である。ここでは科学的な視点と歴史的な視点の双方から阿寒摩周国立公園の全体像について詳しく紹介する。

阿寒摩周国立公園の概要

北海道東部のほぼ中央に位置する阿寒摩周国立公園は、火山と森と湖が織りなす豊かな原始的景観を有する公園である。1934（昭和9）年に阿寒国立公園（当時）として指定された北海道で最も歴史のある国立公園であり、2017（平成29）年に阿寒摩周国立公園に名称変更された。総面積は91,413haにおよび、その大部分が亜寒帯性の針葉樹林を中心とする原生林に被われ、その森林は、日本の国立公園の中でも最も原始的な姿を有しているといわれている。

▲東側の森から見た厳冬の雌阿寒岳。ちょうど山の向こう側にオンネトーがある

阿寒摩周国立公園の基盤は、千島火山帯の活動によってできた阿寒・屈斜路・摩周の3つのカルデラ地形である。カルデラとは、火山活動により大きく陥没したり崩壊してできた凹地地形を差し、カルデラ湖とはその中にできた湖のことをいうが、火山と湖とのペアが狭い範囲でいくつも近接している阿寒摩周国立公園の地形は、全国的にも貴重なものである。

3つのカルデラ地形のうち、阿寒カルデラは、今から15～10万年前の火山活動で生まれたと考えられている。阿寒カルデラ誕生の初期、その中心には大きな「古阿寒湖」があったが、およそ1万年前、雄阿寒岳の噴火活動によって湖が分断され、現在の阿寒湖とパンケトー、ペンケトーが生まれた。

屈斜路カルデラは長径26km、短径20km、日本最大級のカルデラで、約13～10万年前に起こった大噴火により、現在のカルデラの原型ができあがったとみられている。その中に位置する屈斜路湖は、カルデラ湖として日本最大の面積をもつ。

屈斜路カルデラのすぐ東に位置する摩周カルデラは、長径7.5km、短径5.5kmで、約7,000年前の大噴火によって生まれ、世界有数の透明度を誇る摩周湖や壮絶な爆裂火口を見せるカムイヌプリ（摩周岳）がある。

現在の阿寒摩周国立公園にみられる森や湖をはじめとする多様な環境は、過去の火山活動がつくりだした地形の上に成り立っているのである。

▲日本国内第6位の面積を持つ屈斜路湖

阿寒摩周国立公園の生態系

阿寒摩周国立公園における生態系の根幹を成すのは、広大な森と個性豊かな湖沼である。

雌阿寒岳、雄阿寒岳の山麓を覆う森は、トドマツ、エゾマツを主体とする針葉樹林のほか、アカエゾマツの見事な純林がみられる。アカエゾマツは火山噴出

物由来の土壌を好む樹種であり、阿寒のアカエゾマツ林の広がりは、そのまま雌阿寒岳、雄阿寒岳の過去の火山活動の大きさを物語る指標とも言える。また摩周カルデラや西別岳の周辺ではダケカンバの純林が見られるほか、硫黄山周辺では低標高帯に広がるハイマツやイソツツジの大群落を目にすることができる。

これら阿寒摩周国立公園の森には、エゾシカやヒグマ、キタキツネ、エゾタヌキ、エゾクロテンなどの哺乳類が生息する。とりわけエゾシカは生息密度が非常に高く、車が行き交う国道沿いや阿寒湖畔の温泉街周辺でもごく普通に見られる。

鳥類では、針葉樹林を好むキクイタダキやヒガラといった小型種やクマゲラやアカゲラなどのキツツキ類がよく観察されるほか、各湖沼周辺には大型のアオサギや各種のカモ類などが生息している。また冬期には本来は海の猛禽であるオジロワシやオオワシが飛来することもある。

魚類は、希少種のイトウをはじめアメマス、ニジマス、ヒメマス、コイなどが阿寒湖に生息しているほか、屈斜路湖やヒョウタン沼でも多くの魚種の生息が確認されている。阿寒湖には冬期の穴釣りの対象魚として人気のワカサギも数多く生息しており、その佃煮が地元漁協の名産品となっている。

阿寒摩周国立公園の湖沼

阿寒摩周国立公園に点在する湖は、景観のうえで、またレクリエーションを楽しむ場としても国立公園のハイライトといえる存在だ。公園内のおもな湖として次の3つがある。

阿寒湖は阿寒摩周国立公園を代表する湖である。湖畔の温泉街には大型のホテルが並び、一帯の観光の拠点となっているほか、特別天然記念物のマリモはあまりにも有名だ。

▲滝口の紅葉

一方、屈斜路湖は国内第6位の面積をもつ巨大なカルデラ湖である。阿寒湖や摩周湖とは異なる開放的な雰囲気があり、夏はキャンプや釣り、ウォータースポーツなどを楽しむ人で賑わいを見せる。湖岸を掘ると熱湯が湧き出る砂湯や、遊歩道の整備された和琴半島など見どころも多い。

▲阿寒摩周国立公園では普通に見られるエゾシカ。特に冬から春は道路沿いによく出没する

ヒョウタン沼

そして「神秘の湖」の異名を持つ摩周湖は、イメージにおいてほかの二湖と明らかに一線を画している。険しい地形となっているため水辺に近づくことはできず（一般の立ち入りは禁止）、湖に流れ込む川も、流れ出る川もまったくないことから、非常に透明度が高いことで知られている。このような環境であるため、大気を通じて汚染物質が混入した場合にその変化を見つけやすいことから、地球環境を映す鏡ともいうことができる。

これら3つの湖のほか、阿寒湖周辺にはパンケトー、ペンケトーという2つの湖が、深い森に抱かれるように横たわる。また阿寒湖南東の端には太郎湖、次郎湖という2つの湖もあるが、こちらは湖というよりも沼と呼ぶにふさわしい大きさだ。阿寒湖からやや離れ、雌阿寒岳の麓にひっそりとたたずむオンネトーも忘れてはならない。雌阿寒岳の姿を映すエメラルドグリーンの湖面は、まさに秘湖という言葉にふさわしい。

▼深い針葉樹の森に包まれたペンケトー

新たに公園区域に指定された"神の子池"

2017（平成29）年8月、阿寒摩周国立公園への名称変更とともに新たに公園の区域に指定されたのが「神の子池」である。アイヌ語でカムイント（神の湖＝摩周湖）の伏流水からできているという言い伝えで「神の子池」と呼ばれている。神秘的な青色に染まる池として景勝地となっている。

不思議な"水中のビロード球"マリモ

阿寒湖といえば、まずマリモが連想される。マリモはアイヌ名で「トー・ラサンペ（「湖の・御霊」の意）」と呼ばれているが、鮮やかな緑色、ビロードのような質感、そして見事に整った球形の姿は、神秘的と表現されるほどに特異で美しい。日本国内でマリモの存在が広く知られるようになるのは1898（明治31）年、植物学者・川上瀧彌が学会誌に論文を発表したのがきっかけで、マリモの名もこのときに生まれている。

阿寒のシンボル的存在のマリモだが、実は阿寒湖固有の生物ではない。海外ではヨーロッパ北部など、日本では釧路湿原の湖沼や、本州の湖でもマリモの生息が確認されている。ただし整った球状のマリモが見られるのは、国内では阿寒湖だけとされる。

学術的には球状でないものもマリモと呼んでおり、阿寒湖以外の湖ではほとんどが不規則な形の塊となる。また阿寒湖でも球状マリモが生息するのは特定の場所に限られ、すべてのマリモが整った球状になるわけではない。ではなぜ阿寒湖でのみ、マリモが丸い形になるのか？実は、この疑問は完全には解明されていないが、湖の水流や水中の地形が影響し合っていると考えられている。

阿寒湖の美しい球状のマリモは、その珍しさから違法に持ち出されるケースもあったようだ。しかし1921（大正10）年には天然記念物に、さらに1952（昭和27）年には特別天然記念物の指定を受け、長い期間にわたって保護されてきた。マリモの生息には透明度の高い水が不可欠であり、今後も湖の水質を悪化させないことがマリモ保護のポイントといえる。

阿寒湖のチュウルイ島にはマリモ展示観察センターが設けられており、遊覧船に乗って訪れることができるほか、阿寒湖畔エコミュージアムセンターでも水槽内のマリモを間近に観察することができる（注・チュウルイ島マリモ展示観察センターは夏期のみ開館）。

【参考文献】「マリモの科学」著・阪井與志雄（北大図書刊行会）

▲第一展望台からみた摩周湖

◀ 阿寒湖では、直径30cmに達する巨大なマリモも発見されている。調査によれば、このマリモは、1年間に2〜4cmほど直径を増大させたと考えられるという
[写真提供：釧路市教育委員会]

▼ 前田記念館(故前田光子氏旧宅・限定公開)

阿寒湖の森と前田一歩園財団

現在では湖畔に大型の温泉ホテルも多数並ぶ阿寒湖畔。この温泉街を含む湖周辺、およそ3,900haという広大な土地は、ひとつの財団によって所有されている。その名は一般財団法人前田一歩園財団。

財団の歴史は1906(明治39)年、農商務省次官を退官した前田正名がおよそ5,000haの森林の払い下げを受けたことに始まる。正名はその後、各地で産業育成に力を注ぐが、その際に企業体の名称として「万事に一歩が大切」との信念から「一歩園」と命名された。

広大な森林であった阿寒湖畔の前田一歩園は、当初は釧路での製紙会社経営を視野に入れていた。しかし2代目園主・前田正次は「阿寒は切る山でなく見る山」として森を守り育てる姿勢を明確にしつつ、山林経営、温泉開発などの事業を進めていった。正次の死後、1957(昭和32)年に3代目園主となったのは、その妻・光子である。時はまさに戦後の混乱から立ち直り、北海道にも観光ブームが押し寄せる時代であった。阿寒の地にも開発の手が伸びてくるが、光子はそれに対して毅然とした態度で臨む。そして阿寒の自然を公共の財産として守るために目指したのが、前田一歩園の財団法人化だった。光子の努力が実り、財団法人としての認可が下りたのは1983(昭和58)年のことだ。しかしそのとき光子は病床にあり、認可からわずか17日後に不帰の人となった。

column

硫黄採掘の歴史　〜硫黄山、雌阿寒岳での採掘〜

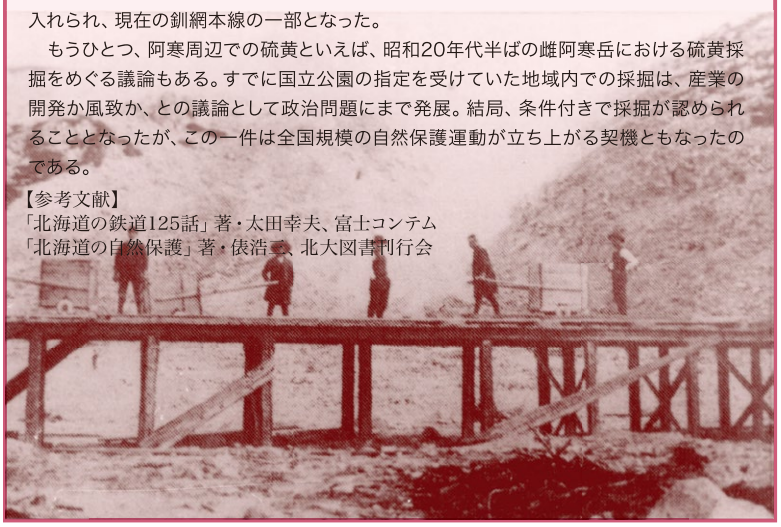
硫黄は、古くから火薬の原料などに利用されてきた化学物質であり、火山の火口周辺に多いことから、日本では各地の火山で採掘が行われてきた。火山活動の活発な阿寒摩周国立公園周辺もその例外ではない。

川湯温泉に近い硫黄山（アトサヌプリ）で本格的な採掘が始まったのは1876（明治9）年のことだった。1887(明治20)年からは安田財閥の創始者・安田善次郎が経営に乗り出し、山麓から標茶町までの鉄道を敷くなど、硫黄採掘事業をさらに拡大させた。また1885（明治18)年に標茶に集治監（監獄）が設けられると、その囚人たちが鉄道建設と鉱山での過酷な労働に駆り出されたことも、裏面史として伝えられている。

しかし大規模な採掘が進んだ結果、硫黄の資源は急減し、1896(明治29)年には採掘事業の終焉を迎えた。鉱山事業としては短命だったが、多くの労働者が入ったことにより地域の発展の基礎が造られたという側面もある。硫黄運搬のために敷かれた40kmあまりの鉄道は閉山後、一時は廃線となったものの、のちに建設される官設鉄道の路線に取り入れられ、現在の釧網本線の一部となった。

もうひとつ、阿寒周辺での硫黄といえば、昭和20年代半ばの雌阿寒岳における硫黄採掘をめぐる議論もある。すでに国立公園の指定を受けていた地域内での採掘は、産業の開発か風致か、との議論として政治問題にまで発展。結局、条件付きで採掘が認められることとなったが、この一件は全国規模の自然保護運動が立ち上がる契機ともなったのである。

【参考文献】
「北海道の鉄道125話」著・太田幸夫、富士コンテム
「北海道の自然保護」著・俵浩三、北大図書刊行会



How to enjoy Akan-Mashu National Park

阿寒摩周国立公園のアクティビティ

多くの湖に山々そして温泉と、変化に富んだ自然風景に恵まれた阿寒摩周国立公園は、自分の足で歩いて楽しむ観光地として非常に魅力的なエリアである。ここでは公園内にあるいくつかの登山ルートや散策コースのガイダンスを通して、阿寒摩周国立公園の見どころ、利用方法について紹介していこう。

[登山・トレッキング] Climbing

阿寒摩周国立公園内での登山は、日本百名山にも入っている雄阿寒、雌阿寒の両山がハイライト。両山のコース概要と、藻琴山、西別岳へ至るコースを紹介する。

雄阿寒岳登山（1370m）

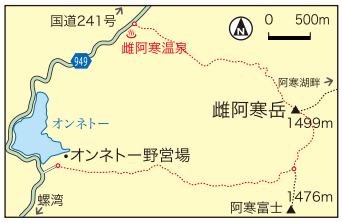
【DATA】登山口は阿寒湖温泉から車で約10分。登り約3時間半。下り2時間半。

アイヌ語ではこの山をピンネ・シリ（男の山）、雌阿寒岳をマチネ・シリ（女の山）と呼び、いわば夫婦の山と捉えている。雄阿寒岳の登山口は、阿寒湖畔温泉街から約5km東の国道沿い。最初は阿寒湖の岸を歩き、小さな沢に沿って太郎湖のほとりへ。続く次郎湖をすぎると、見事なアカエゾマツ林の中、少々手ごわい急斜面も交えながらどんどん高度を上げてゆく。5合目の標識あたりで森林限界を越え、ここからは緩やかな歩きで山頂へ。頂上からは阿寒湖やパンケトー、天気がよければ大雪の山並みが見えることもある。

雌阿寒岳登山（1499m）

【DATA】オンネトーコースでは山頂まで登り約2時間半、下り1時間40分。雌阿寒温泉コースは登り約2時間、下り1時間半。阿寒湖畔コースは登り約3時間、下り2時間半。

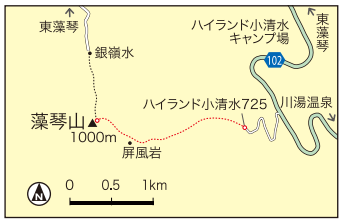
雌阿寒温泉からのコースのほか、オンネトー、阿寒湖畔からのコースもある。現在も活発な火山活動が続いているので、入山前に状況を確認しておきたい。全体にアカエゾマツが多く、前半は鬱蒼とした雰囲気の中を進む。山頂が近づくにつれ、ゴーゴーと音を上げながら噴気を上げる荒々しい火口の景観も間近に望まれ、変化に富んだ景色を堪能することができる。



藻琴山登山（1000m）

【DATA】道道102号から看板を目印に脇道に入り「ハイランド小清水725」へ。そこから藻琴山山頂へは登り1時間、下り40分程度が目安。

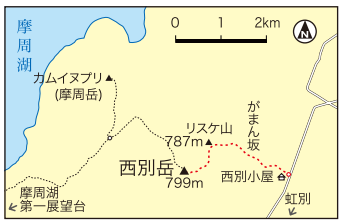
屈斜路湖の北側の藻琴山は屈斜路カルデラの外輪山のひとつ。山麓を通る道道102号脇に建つ「ハイランド小清水725」からの眺めも見事だが、ここからさらに登山道をたどって藻琴山の山頂まで登ることができる。山頂からは眼下の屈斜路湖はもとより、知床の山々やオホーツク海も望み、まさに絶景。比較的歩きやすい道なので、晴れた日ならぜひ登ってみたい山だ。



西別岳登山（799m）

【DATA】西別岳山頂まで登り約1時間30分ほど。所要時間も短く、地元の小学校の登山遠足でも利用されるなど、初心者にも向く山といえる。

西別岳は1000mを切る標高ながら高山植物の多い山として知られている。登り始めて30分ほどで、がまん坂と呼ばれる急登が現れるが、その先は徐々に斜度がゆるくなり、ほどなくリスケ山の山頂部にさしかかる。ここから西別岳山頂までの吊り尾根は、夏には広大なお花畑が広がる。頂上からは根釧原野が一望のもと。カムイヌプリ（摩周岳）の鋭いピークも間近に望まれる。



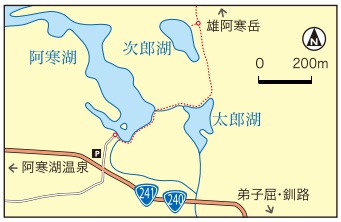
[散　　策]
Hiking

本格的な山登りに比べてぐっと手軽に歩ける遊歩道が豊富なことも、阿寒摩周国立公園の大きな魅力といえる。ここでは、大小の湖沼や森、山裾を巡る代表的な8つのコースについて紹介しよう。

太郎湖〜次郎湖散策

【DATA】スタートは雄阿寒岳登山コースと同じ。登山道入口から約10分で太郎湖、さらに10分歩いて次郎湖に着く。帰路は同じ道を辿る。

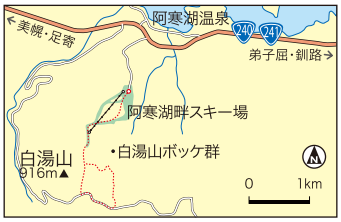
兄弟のような名を付けられた2つの湖は、どちらも面積は0.03km²。森の中にぽっかり開いたオアシスといった雰囲気だ。周囲を深い森に囲まれた湖までの道は、手軽な散歩を楽しむにもうってつけ。道沿いには、見事な針葉樹林が広がっていて心が癒されるが、軽装のときはあまり先に進みすぎず、ほどほどの場所でとどめておくのが賢明だろう。



白湯山遊歩道散策

【DATA】阿寒湖温泉から阿寒湖畔スキー場まで車で約5分。阿寒湖畔スキー場から展望台までは登り約1時間半、下り40分ほど。

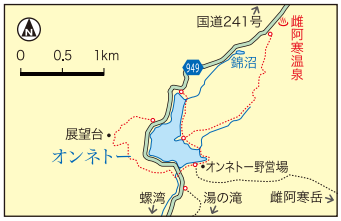
阿寒湖温泉街の背後に位置する白湯山は、阿寒湖や雄阿寒岳を見渡す好展望の地。標高800mあまりの地点に設けられた展望台から見事な眺めが楽しめる。往路は登りなので少々歩き甲斐があるが、軽登山として手頃なコースといえる。スタートは阿寒湖畔スキー場の駐車場から。途中の登山道沿いには阿寒湖畔と同様のボッケがあり、ここでも火山活動の一端を伺うことができる。



オンネトー周遊

【DATA】オンネトー野営場から片道20分ほど。

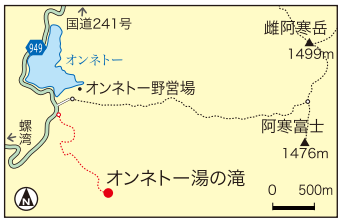
アイヌ語で「年老いた・大きな湖」を意味するオンネトー。周囲約4kmの湖の西岸には車道が通じており、途中いくつかの展望地から湖を眺めることができる。湖面に映る雌阿寒岳の姿は阿寒摩周国立公園の代表的景観のひとつである。西側の水辺には歩行者専用の遊歩道が設けられているので、木々の梢越しに湖を眺めながら静かな散策が楽しめる。遊歩道を部分的に歩くのもいい。



オンネトー湯の滝散策

【DATA】オンネトー野営場から散策路を歩き、オンネトー湯の滝までは片道20分ほど。

オンネトー湖畔の南側から広い散策路が伸びている。名前のとおり温泉水が滝となって流れ落ちており、かつては滝壺を天然の露天風呂として入浴することができた。しかし水中の微生物がマンガン酸化物を生成する現象が発見されたことから天然記念物に指定。現在は入浴禁止となっている。散策路ではリスや野鳥の姿もよく見かけるので、できるだけのんびり歩きたい。



つつじヶ原自然探勝路散策

【DATA】川湯温泉から硫黄山まで約2.5km、徒歩約1時間。硫黄山駐車場は有料。

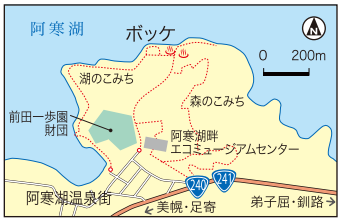
川湯温泉の南にあり、今も活発に噴気を上げ続ける硫黄山。山頂まで登ることはできないが、山麓部の噴気口周辺を歩くことができる。轟音を響かせながら白い水蒸気を立ち上らせる噴気口は迫力満点。周囲はイソツツジの大群落で、開花時期の6月中旬から7月上旬には可憐な白い花が楽しめる。6月中旬〜7月上旬まで地元ボランティアガイドによる朝の散策会も行われている。

ボッケ遊歩道散策

【DATA】阿寒湖畔エコミュージアムセンターからボッケまで5分ほど。周回コース一周はゆっくり歩いて約30分。

阿寒湖畔にある泥火山"ボッケ"へは、阿寒湖畔エコミュージアムセンター横から遊歩道が通じている。泥の溜まった噴気孔から水蒸気が噴き上がる珍しい光景が見ものだ。遊歩道は周回コースとなっており、ボッケを見たあとは湖沿いに出発地点へ戻れる。ノリウツギ(※)の花の群落やエゾマツやトドマツの大木なども見られる。温泉街からの手軽な散歩にも向いている。

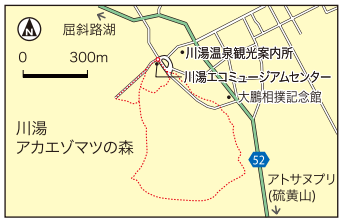
※ノリウツギ：北海道では「サビタ」と呼ばれる



川湯アカエゾマツの森散策

【DATA】一周約2.2km（所要1時間）と700m（30分）の2コースがある。歩くスキー、スノーシューのレンタルあり（有料）。

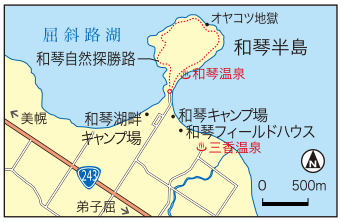
川湯エコミュージアムセンター周辺にはアカエゾマツを主体とする森が広がり、その中の散策路をたどって手軽なウォーキングが楽しめる。散策路沿いにはゴゼンタチバナの群落があり、6月中旬に白い可憐な花を咲かせるほか、8月から9月にかけては赤い実のなる鮮やかな姿を楽しめる。また積雪期には、同じルートをスノーシューや歩くスキーで雪上散策することもできる。



和琴自然探勝路散策

【DATA】和琴半島へは川湯温泉からのバスで「和琴入口」下車後、徒歩20分。半島一周は約2.5km（約1時間）。

和琴半島は、もともと火山活動によって生まれた島が陸続きになってできた。先端部では、熱い噴気を上げる「オヤコツ地獄」が見られるほか、ミンミンゼミが局地的に生息しており、その個体群は天然記念物に指定されている。なお半島基部の湖畔には露天風呂やキャンプ場などがあり、夏には多くの観光客やキャンパーで賑わいを見せる。



[その他]
Others

阿寒摩周国立公園では、登山や散策以外にも多様なレジャーを楽しむことができる。カヌー、温泉、釣りについて楽しみ方を簡単に紹介しておこう。

カヌーツアー

阿寒摩周国立公園内では、釧路川上流や屈斜路湖、阿寒湖などでカヌーツアーが実施されている。深い森に包まれた水面をゆっくり漕ぎながら静かに探索できるのはカヌーならではの魅力だ。全国的な人気を誇る釧路川源流部、温泉湧出地のオヤコツ地獄などを巡る屈斜路湖の和琴半島周辺、雄阿寒岳を望みながらの湖面散策が楽しめる阿寒湖など、いずれのツアーも経験豊かなガイド付きで、未経験者でも手軽に体験することができる。

屈斜路湖から流れ出る釧路川。ツアー参加の問い合わせは各観光協会へ(→p23参照)

温泉

阿寒摩周国立公園内には雌阿寒温泉、阿寒湖温泉、川湯温泉、仁伏温泉などがあり、多くの観光客で賑わっている。宿泊施設も民宿からホテルまでバリエーション豊かなので、気軽に各観光協会へ問い合わせてみよう。

釣り

夏は阿寒湖や阿寒川上流、ヒョウタン沼、屈斜路湖などで釣りが楽しめる。対象魚はニジマスやアメマスで、冬期は阿寒湖でのワカサギの穴釣りが人気だ。阿寒湖と阿寒川上流は遊漁料が必要（禁漁規制にも注意を）。

関連施設案内

インフォメーション

阿寒湖畔エコミュージアムセンター

阿寒の自然の仕組み、そこに棲む生物などに関する幅広い内容の展示が楽しめる。水槽ではイトウやヒメマスなどの魚類とともに、阿寒のシンボル、阿寒湖のマリモも観察できる。

【DATA】所在地／北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉1-1-1 tel.0154-67-4100　開館時間／9:00〜17:00(8月1日〜8月20日は18:00まで)　休館日／毎週火曜日(祝祭日の場合は翌日、8月は無休) 入館料／無料

「もりのパレット」川湯エコミュージアムセンター

変化に富んだ川湯の自然を紹介する施設。館内にはラウンジがあり、自然に関する本を読むこともできる。周辺の散策路でスタッフによるガイドウォーキングも実施。

【DATA】所在地／北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-6 tel.015-483-4100 開館時間／8:00〜17:00(4月〜10月)、9:00〜16:00(11月〜3月)　休館日／毎週水曜日(7月第3週〜8月31日は無休) 入館料／無料

キャンプ場

阿寒湖畔野営場

阿寒湖畔の温泉街近くに位置するキャンプ場。場内の設備は質素かつ清潔で、温泉街や商店が徒歩圏内にあることも便利。2004年に場内に登場した足湯(ユックの湯)も好評だ。

【DATA】所在地／北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉5-1 tel.0154-67-3263　開設期間／6月〜9月　利用料／小・中学生315円 大人630円

オンネトー野営場

深い森に囲まれた野趣あふれるたたずまいが魅力のキャンプ場。一角はオンネトーの水辺に接し、神秘的な湖面が目の前に広がる。夜にはエゾシカが出没することもあり。

【DATA】所在地／北海道足寄郡足寄町茂足寄国有林内 tel.0156-29-7030　開設期間／6月〜10月　利用料／小人200円 大人350円

砂湯キャンプ場

砂湯は文字どおり屈斜路湖畔の砂浜の中に湧く温泉。キャンプ場は砂湯の周辺に広がり、砂浜や周辺の木立の中、好きな場所にテントを張ることができる。ファミリーの利用も多い。

【DATA】所在地／北海道川上郡弟子屈町美留和砂湯 tel.015-484-2254　開設期間／6月下旬〜9月中旬　利用料／小・中学生300円 大人500円

和琴湖畔キャンプ場

和琴半島基部の北岸に位置し、湖での遊びを楽しむのに格好の拠点として親しまれている。近くには無料で利用できる露天風呂もあり、水遊びの合間に入るのにもってこいだ。

【DATA】所在地／北海道川上郡弟子屈町屈斜路和琴半島 tel.015-484-2350　開設期間／4月下旬〜10月末　利用料／小人(3才〜中学生)350円、大人450円

和琴野営場

区画分けされたサイトで落ち着いて過ごせるキャンプ場。観光の拠点としての利便性に遜色はなく、バイクや自転車でのツーリング途中に泊まる人の姿をよく見かける。

【DATA】所在地／北海道川上郡弟子屈町屈斜路和琴半島 tel.015-484-2835　開設期間／6月下旬〜9月中旬　利用料／小人300円 大人500円

阿寒摩周国立公園 利用の注意事項 CAUTION

1 ゴミは持ち帰る

ゴミを捨てることはマナーの問題だけではありません。お菓子の袋やジュースの缶に残った食べ物の味を覚えた野生動物が、市街地に出没したり人を襲う原因となりかねません。持ち込んだゴミは全て持ち帰りましょう。

2 遊歩道や登山道から外れない

植生保護のため、遊歩道や登山道から外れないようにしてください。一度、踏みつけられた植生は簡単に再生しません。写真撮影などでお花畑に踏み込むことはもちろん、ぬかるんで歩きにくいところを避けることもやめましょう。

3 植物の採取や動物の捕獲をしない

国立公園内の一部は、一切の動植物の採取が禁止されています。それ以外の地域でも、本来の生態系を壊すことにつながるのでやめてください。自然はそこに生きる生命と訪れる人たちすべての共有物であることをお忘れなく。

4 野生動物に近づかない

人間にとっては充分な距離でも、野生動物にとってそうとは限りません。彼らの許容範囲を超えて近づけば、ヒグマはもちろん、エゾシカも角で威嚇してきたりすることがあります。道路で野生動物を見つけても、車から降りないようにしましょう。

5 野生動物にえさを与えない

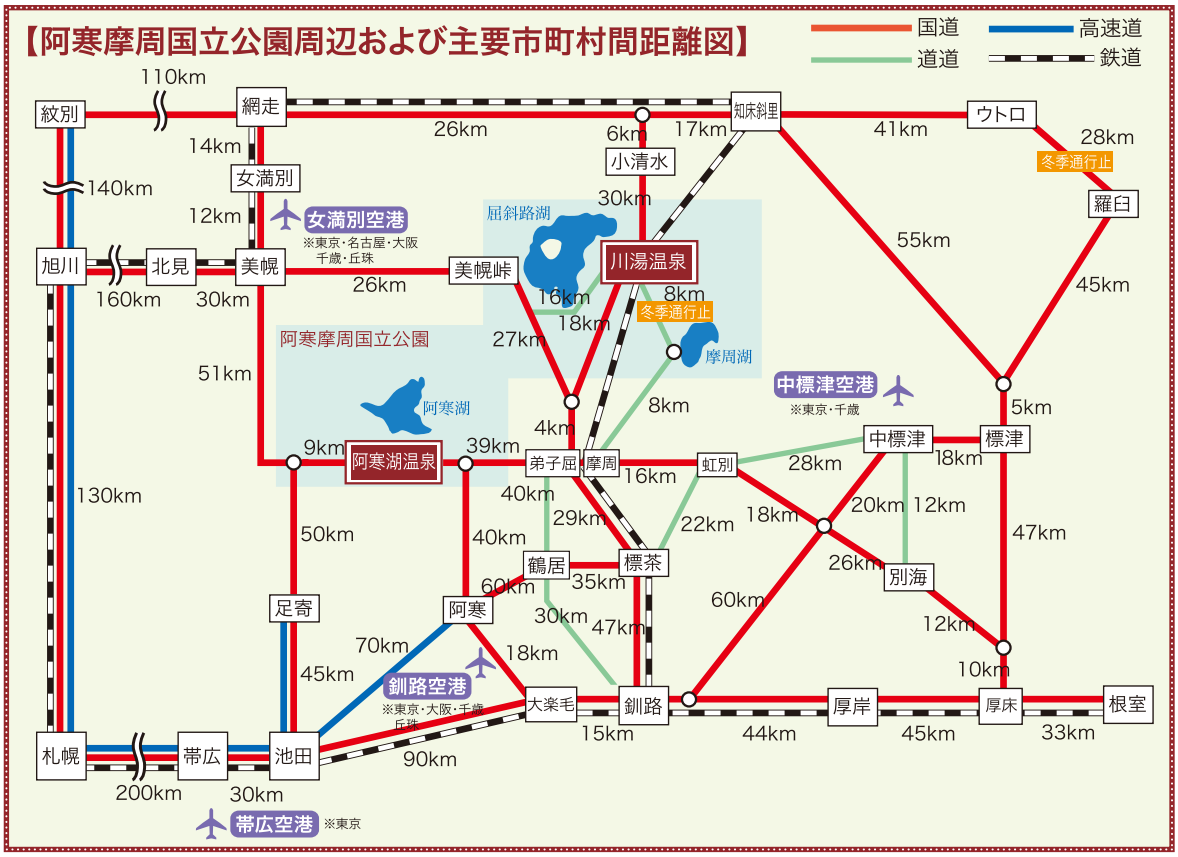
いったん人間の食べ物の味を覚えた野生動物は、繰り返し人間に近づくようになります。これは野生動物本来のあり方を脅かすだけでなく、人間に危害を加えることにもつながります。また、人間の与えるえさがキツネなどの免疫力を低下させるという報告もあります。どんなにかわいくても、絶対にえさは与えないようにしましょう。

Access to Akan-Mashu National Park

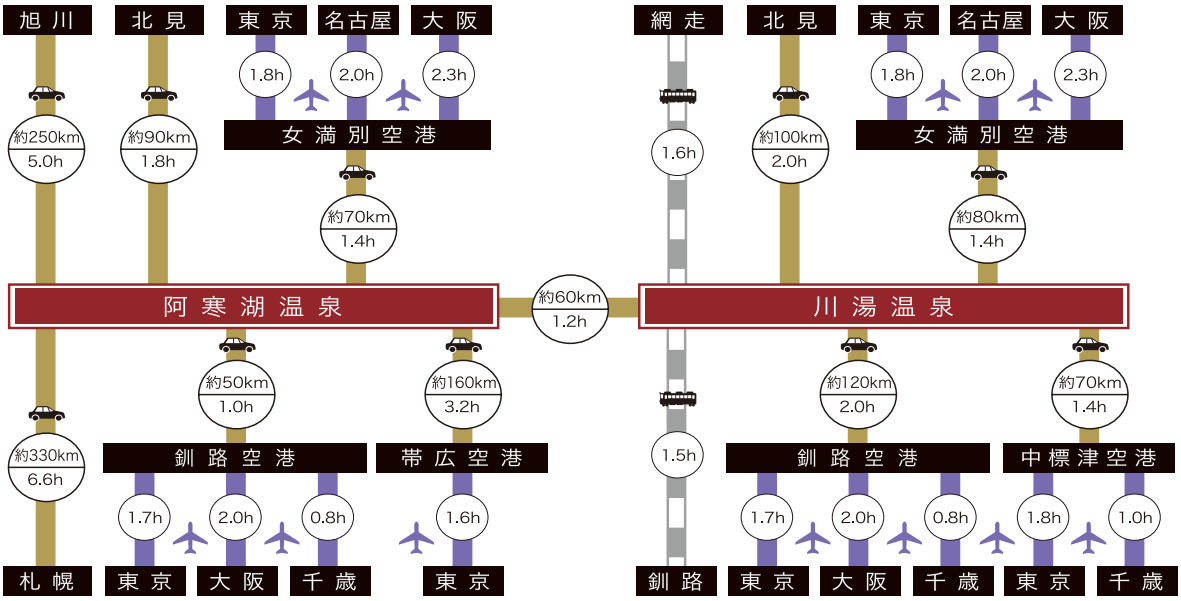
阿寒摩周国立公園に行くには

阿寒摩周国立公園の代表的スポットである阿寒湖温泉へは、基本的に自家用車、もしくは路線バスでのアプローチとなる。一方、東側の拠点・川湯温泉は、自家用車、バスに加えてJR釧網本線が利用できる。

【阿寒摩周国立公園周辺および主要市町村間距離図】



【阿寒摩周国立公園への交通アクセス概念図】



関係施設・機関連絡先一覧

※主な利用施設の連絡先はp21を参照して下さい

飛行機（釧路空港・女満別空港・中標津空港就航会社）

JAL（日本航空）・HAC（北海道エアシステム）… 0120-25-5971
※携帯専用 …… 0570-025-071
ANA（全日空） …… 0120-029-222
※携帯専用 …… 0570-029-222
AIRDO …… 0120-057-333

バス

阿寒バス阿寒湖営業所 …… 0154-67-2205
阿寒バス摩周営業所 …… 015-486-7716
阿寒バス釧路本社営業所 …… 0154-37-2224
くしろバス釧路駅前ターミナル …… 0154-24-2498

鉄道（駅）

JR摩周駅 …… 015-482-2030
JR釧路駅旅行センター …… 0154-25-4890
JR釧路駅 …… 0154-22-4314

ハイヤー

阿寒観光ハイヤー …… 0154-66-3221
阿寒ハイヤー …… 0154-67-2921
摩周ハイヤー …… 015-482-3939
摩周ハイヤー川湯営業所 …… 015-483-2428
まりも交通 …… 0120-489-818
永楽交通 …… 0154-22-2386
金星釧路ハイヤー …… 0154-22-8141
釧路交通 …… 0154-51-1234
釧路個人タクシー協同組合 …… 0154-22-3156
釧路北交ハイヤー …… 0154-22-9151

レンタカー（空港や駅等の観光案内所にお問合せください。）

釧路空港観光案内所 …… 0154-57-8304
釧路駅観光案内所 …… 0154-22-8294
摩周駅観光案内所 …… 015-482-2642
女満別空港観光案内所 …… 0152-74-4182
中標津空港観光案内所 …… 0153-72-3190

観光情報提供機関・施設

阿寒観光協会まちづくり推進機構 …… 0154-67-3200
阿寒観光汽船 …… 0154-67-2511
阿寒湖漁業協同組合 …… 0154-67-2750
摩周湖観光協会 …… 015-482-2200
摩周湖観光案内所 …… 015-482-3515
摩周駅観光案内所 …… 015-482-2642
川湯温泉観光案内所 …… 015-483-2670
釧路観光協会 …… 0154-31-1993
道の駅摩周温泉観光インフォメーションデスク 015-482-2500

[広域観光関係機関]

釧路観光コンベンション協会 …… 0154-41-2111
オホーツク圏観光連盟 …… 0152-45-1885

自然情報等提供・解説施設

マリモ展示観察センター …… 0154-67-2505
阿寒湖アイヌシアターイコロ …… 0154-67-2727
弟子屈町屈斜路コタンアイヌ民俗資料館 015-482-2948

警察署・消防署

釧路警察署阿寒湖畔駐在所 …… 0154-67-2151
弟子屈警察署川湯駐在所 …… 015-483-2151
釧路市消防本部西消防署阿寒湖温泉支署 … 0154-67-2702
弟子屈消防署川湯支署 …… 015-483-2216

医療施設

道立阿寒湖畔診療所 …… 0154-67-2774
摩周厚生病院 …… 015-482-2241
川湯の森病院（代表） …… 015-483-3121

Profile of National Parks in Japan

国立公園のプロフィール

国土の7割が森林に覆われ、亜寒帯から亜熱帯まで多様な環境や動植物に恵まれた日本列島。豊かで美しい日本の自然を代表する地域が国立公園である。

日本の国立公園は1931年の制度創設以来、80年余りの歴史を有している。現在、全国で北海道から琉球列島まで、34の国立公園が指定されており、国土の陸域面積の約6パーセントを占めている。我が国の代表的な自然環境をカバーする国立公園は、自然環境と生物多様性を保全するための保護地域システムの骨格を担っている。

日本の国立公園には、原生的な森林や湿原だけでなく、人と自然の関わりを通じて形成された農耕地や集落周辺の自然、また歴史的、文化的景観も含まれている。さまざまなレクリエーションや教育活動などに利用することも目的としており、地域社会との共存を重視している。

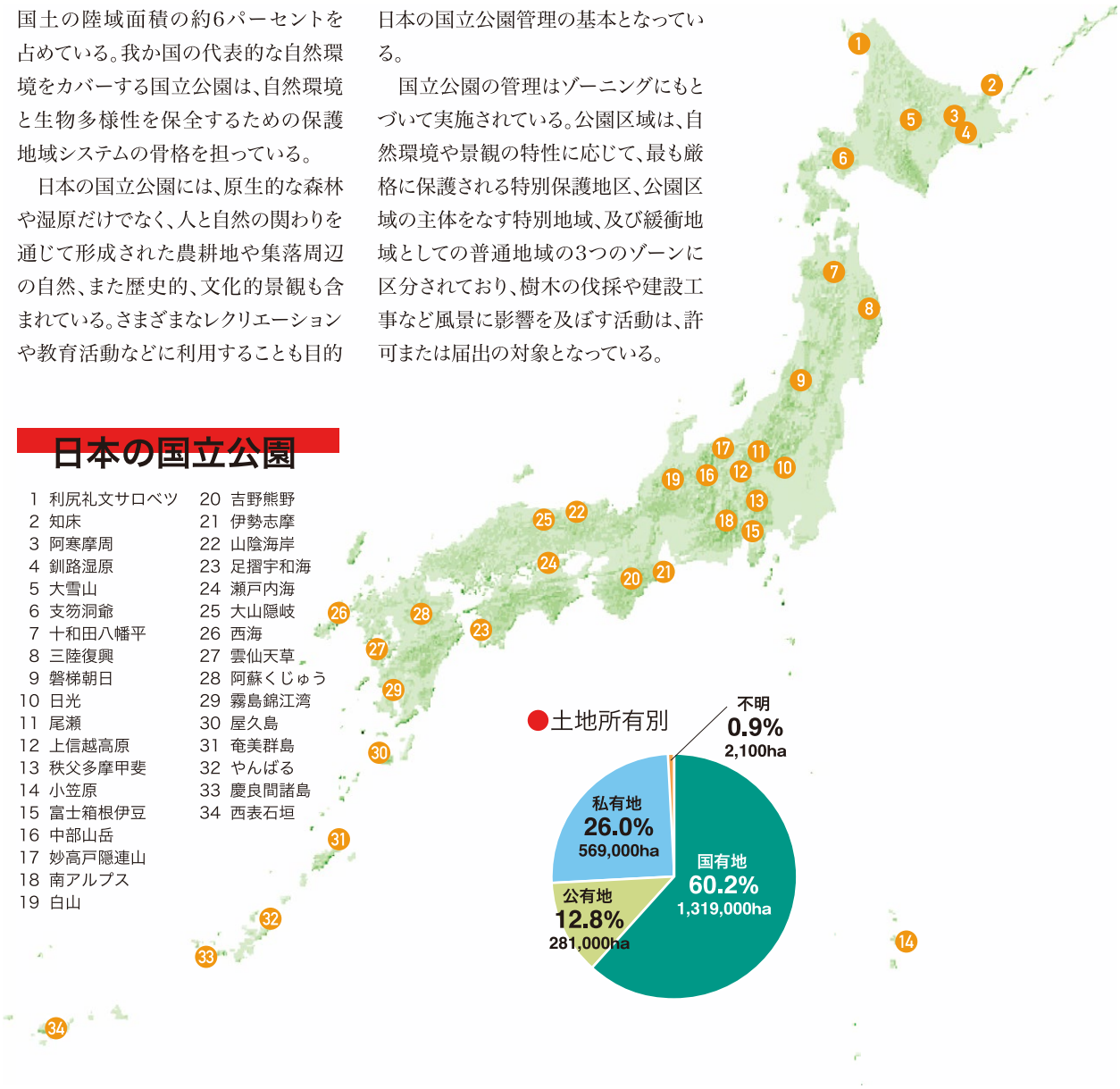
日本の国立公園は、土地所有にかかわらず指定される。公園内の国有地も、多くは公園以外の目的で管理されている。このため、土地所有者を始めさまざまな関係者と産業活動や土地利用の調整を図りながら、自然資源の保護と持続的な利用を両立させていくことが日本の国立公園管理の基本となっている。

国立公園の管理はゾーニングにもとづいて実施されている。公園区域は、自然環境や景観の特性に応じて、最も厳格に保護される特別保護地区、公園区域の主体をなす特別地域、及び緩衝地域としての普通地域の3つのゾーンに区分されており、樹木の伐採や建設工事など風景に影響を及ぼす活動は、許可または届出の対象となっている。

国立公園の管理は、環境省の地方環境事務所が地方公共団体などの協力を得ながら実施している。各公園には国立公園管理官や自然保護官が配置され、開発行為との調整、利用施設の整備、普及啓発・インタープリテーション、自然環境のモニタリングなどの業務に携わっている。

日本の国立公園

1 利尻礼文サロベツ
2 知床
3 阿寒摩周
4 釧路湿原
5 大雪山
6 支笏洞爺
7 十和田八幡平
8 三陸復興
9 磐梯朝日
10 日光
11 尾瀬
12 上信越高原
13 秩父多摩甲斐
14 小笠原
15 富士箱根伊豆
16 中部山岳
17 妙高戸隠連山
18 南アルプス
19 白山
20 吉野熊野
21 伊勢志摩
22 山陰海岸
23 足摺宇和海
24 瀬戸内海
25 大山隠岐
26 西海
27 雲仙天草
28 阿蘇くじゅう
29 霧島錦江湾
30 屋久島
31 奄美群島
32 やんばる
33 慶良間諸島
34 西表石垣



Conservation of the Natural Environments in Hokkaido

北海道の自然環境保全

豊かな自然を誇る日本の中でも、原生的な自然が最も多く残されている北海道。その自然を守り、共生し、将来に残していくために、国立公園のほかにも様々な自然環境保全に関するしくみがある。

●自然公園

日本の自然公園には、国立公園のほか、国立公園に準ずる自然の風景地である国定公園（全国に57箇所）、国立公園・国定公園に次ぐ自然の風景地である都道府県立自然公園があり、日本最大の保護地域制度となっている。

●原生自然環境保全地域・自然環境保全地域

ほとんど人の手が加わっていない原生状態が保たれている地域やすぐれた自然環境を維持している地域を、原生自然環境保全地域（全国に5箇所）、自然環境保全地域（全国に10箇所）に指定している。

●世界自然遺産地域

「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づき、人類にとって普遍的な価値をもつ遺産として国際的に保護・保存されることが決まった自然地域（2017年現在、全国で4箇所が登録）。

●ラムサール条約湿地

日本は1980年に、国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促進することを目的とする「ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）」に加入し、同時に釧路湿原を登録した（2017年現在、全国で50箇所（148,002ha）が登録）。

●国指定鳥獣保護区

鳥獣（野生に生息する鳥類とほ乳類）の保護繁殖を図るために指定される区域（大規模生息地、集団渡来地、集団繁殖地、希少鳥獣生息地の4区分）。狩猟による鳥獣の捕獲が禁止されるほか、野生鳥獣の保全事業が実施される。

国立公園

1 利尻礼文サロベツ
2 知床
3 阿寒摩周
4 釧路湿原
5 大雪山
6 支笏洞爺

国定公園

1 暑寒別天売焼尻
2 網走
3 ニセコ積丹小樽海岸
4 日高山脈襟裳
5 大沼

道立自然公園

1 厚岸
2 富良野芦別
3 檜山
4 恵山
5 野付風蓮
6 松前矢越
7 北オホーツク
8 野幌森林公園
9 狩場茂津多
10 朱鞠内
11 天塩岳
12 斜里岳

原生自然環境保全地域

1 遠音別岳
2 十勝川源流部

自然環境保全地域

1 大平山

世界自然遺産

1 知床

国指定鳥獣保護区

1 浜頓別クッチャロ湖
2 サロベツ
3 天売島
4 宮島沼
5 濤沸湖
6 知床
7 野付半島・野付湾
8 風蓮湖
9 厚岸・別寒辺牛・霧多布
10 ユルリ・モユルリ
11 大黒島
12 釧路湿原
13 大雪山
14 ウトナイ湖

ラムサール条約登録湿地

1 クッチャロ湖
2 サロベツ原野
3 濤沸湖
4 野付半島・野付湾
5 風蓮湖・春国岱
6 霧多布湿原
7 厚岸湖・別寒辺牛湿原
8 釧路湿原
9 阿寒湖
10 雨竜沼湿原
11 宮島沼
12 ウトナイ湖

● 環境省釧路自然環境事務所
〒085-8639　北海道釧路市幸町10-3　釧路地方合同庁舎4階
TEL：0154-32-7500　FAX：0154-32-7575

第5版　2018年3月

日本の国立公園3

阿寒摩周国立公園

メアカンキンバイ(バラ科)

画：二橋愛次郎

Potentilla miyabei

雌阿寒岳で発見され、花の色が黄色で形が梅の花に似ているところからこの名前がついた。北海道に分布する日本の国有種で、知床・阿寒・大雪山系と羊蹄山の砂礫地に生える。背は低く、地面にへばりつくように生え、マット状に広がる。環境省レッドリスト：絶滅危惧ⅠA類（CR）

● 阿寒摩周国立公園管理事務所
〒088-3465　北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-2
TEL：015-483-2335　FAX：015-483-2862

● 阿寒摩周国立公園管理事務所 阿寒湖管理官事務所
〒085-0467　北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉1-1-1
TEL：0154-67-2624　FAX：0154-67-2631

● 川湯エコミュージアムセンター
〒088-3465　北海道川上郡弟子屈町川湯温泉2-2-6
TEL：015-483-4100

● 阿寒湖畔エコミュージアムセンター
〒085-0467　北海道釧路市阿寒町阿寒湖温泉1-1-1
TEL：0154-67-4100

R80
古紙配合率80%再生紙を使用しています